人材育成に込めた想い ー首里城で人材育成に取り組む技術者からのメッセージー

株式会社 社寺建
近藤 克昭 / 宮大工棟梁

正殿復元工事の木工事では、沖縄県出身の若手の技術者を会社で雇用し、仕事の中で技術を学んでもらっています。工事を通して技術を身に着けてもらい、今後も続く首里城復興を担える人材になってほしいと考えています。首里城も建てて終わりではありません。修理や改修も必要になりますし、その他の文化財の復元も沖縄で行われると思います。そのような仕事に携われる人材を、正殿の工事を通して育てたいと思います。

株式会社 漆芸工房
諸見 由則 / 漆芸家

沖縄県立芸大や沖縄県工芸振興センター出身の若手を雇用し、技術を伝えています。学校で漆の基礎を学び、首里城で漆塗りの工事を経験することで、漆器のような器物への漆塗りと、首里城のような建造物への漆塗り、両方できる技術者を育てたいと思っています。本土でも両方できる漆芸家はあまりいません。漆塗りの技術者は全国的にも減っていますが、沖縄には首里城があります。首里城復元をチャンスとして、人材を育てる機会に繋げていきたいと思います。

沖縄で伝統工芸に挑戦する意義 ー活躍する若手クリエーターからのメッセージー

株式会社 漆芸工房 / 工房ぬりトン
森田 哲也 / 漆芸家

滋賀県出身。沖縄県工芸指導所（現：沖縄県工芸振興センター）を修了後、漆芸家として独立。漆器の制作だけでなく、首里城の漆の塗装工事にも携わる。近年は、現代の建築へ漆を取り入れる新しい取組も行なっている。

琉球漆器は、認知度は低いかもしれませんが、14 世紀頃からの長い歴史がある工芸品です。何百年も前の技術を現代に受け継ぎ、形にできることにはやりがいが感じられます。また、漆の硬化には温度と湿度が必要なため、高温多湿な沖縄は漆の硬化に適した環境です。冬季は漆が乾きにくくなる地方もある中で、沖縄では年間を通して漆器の制作ができるので、漆に取り組むためには適した場所だと思います。

知念紅型（びんがた）研究所
知念 冬馬 / 紅型（びんがた）作家

沖縄県出身。京都や大阪、イタリアのミラノでグラフィックデザインを学ぶ。下儀保村知念家十代を継承し、工房の当主を務める。工房で人材育成を行うとともに、国内外で琉球紅型の普及、発展に勤しんでいる。

沖縄の紅型は、廃藩置県や第二次世界大戦などの影響で、一時は衰退し技術が失われかけましたが、当時の技術者の努力で復興させた歴史があります。そのような紅型を後世につないでいくためにも、沖縄で紅型をつくりながら、技術を残していくことに意味があると思います。紅型の色鮮やかな色合いは、沖縄の気候風土の中で生み出された染料や糊の配合でつくられるので、沖縄でしか出すことができない沖縄の色です。

首里城復元における技術継承・人材育成に係る連携協定

令和 4 年 11 月 22 日、内閣府沖縄総合事務局・沖縄県・一般財団法人沖縄美ら島財団・沖縄県立芸術大学で、「首里城復元における技術継承・人材育成に係る連携協定」を結びました。

内閣府沖縄総合事務局は、正殿等の復元工事を実施するとともに、首里城復元に係る人材育成の全体調整の役割を担います。国と県の連携、および沖縄美ら島財団や沖縄県立芸術大学等の関係機関の協力のもと、持続可能なかたちで復元、保存修復等の技術を有する人材の育成を進めています。

制作：内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所 首里出張所
〒903-0812 沖縄県那覇市首里当蔵町３丁目１番地
TEL: 098-886-3161　FAX: 098-886-3154
発行：令和６年８月

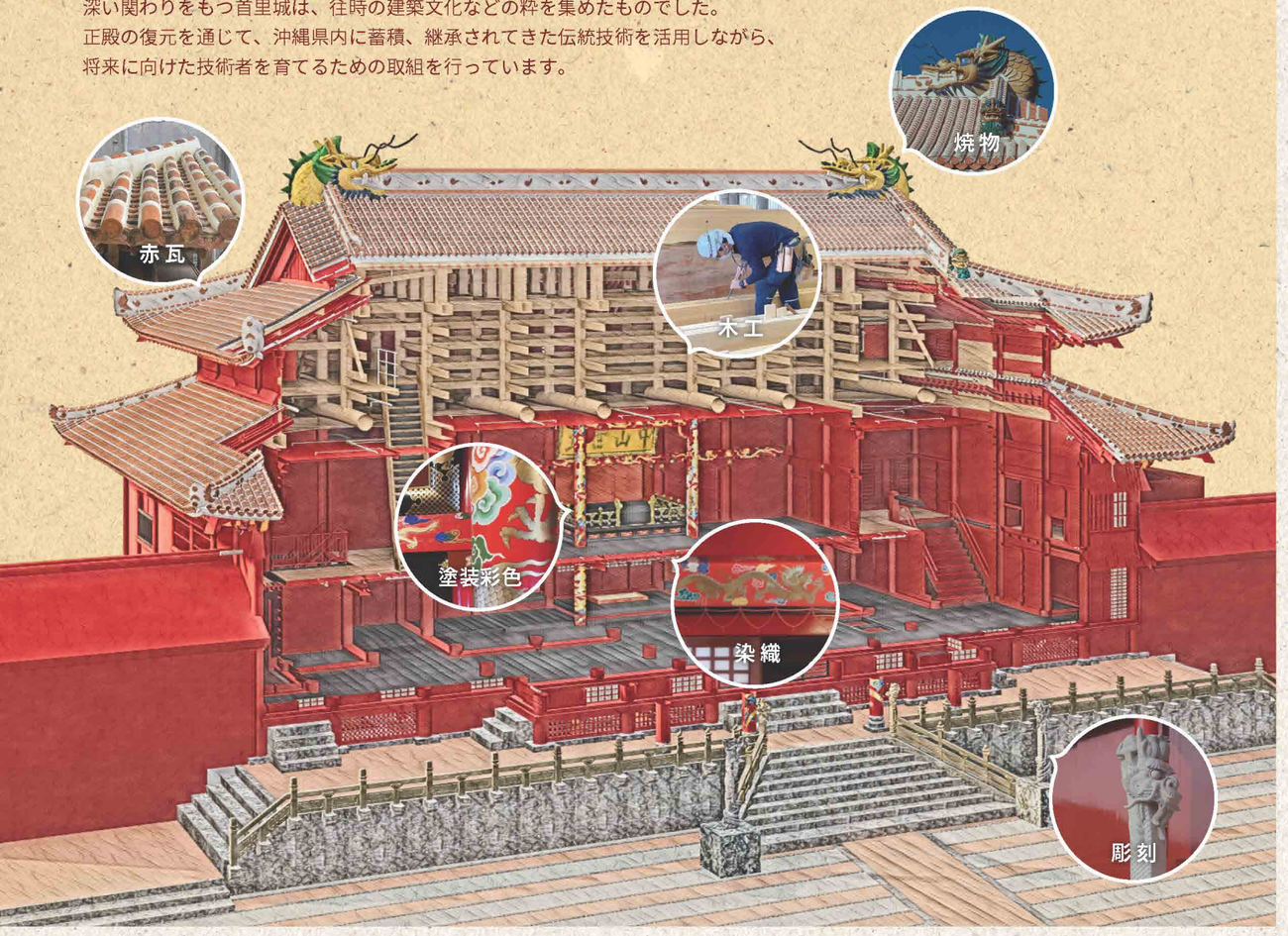
紹介した取組の詳細な情報を知りたい方はこちらをご覧ください。

首里城でつなぐ おきなわ伝統の技術

沖縄総合事務局 内閣府
沖縄県 OKINAWA PREFECTURE
一般財団法人 沖縄美ら島財団 Okinawa Churashima Foundation
沖縄県立芸術大学 OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

首里城正殿で伝統技術を探してみよう

約 450 年間にわたる琉球王国の「王宮」「王府」として、歴史上の様々な事象と
深い関わりをもつ首里城は、往時の建築文化などの粋を集めたものでした。
正殿の復元を通じて、沖縄県内に蓄積、継承されてきた伝統技術を活用しながら、
将来に向けた技術者を育てるための取組を行っています。



塗装彩色
漆塗りと彩色

漆が全体に塗られた正殿は、建物そのものが大きな漆工芸の作品のようです。正殿にはたくさんの漆の技が使われていて、特に建物の中央部にある「御差床」の柱や扁額の漆塗りが見所です。

木工
建造物木工

正殿は、木組みと呼ばれる伝統的な工法で組み立てられます。木組みとは、木材を立体的に加工して組み立て、釘や金具を使わずに丈夫な建物を作り上げる宮大工の技です。

赤瓦
瓦制作と瓦葺き

赤瓦は、おもに「クチャ」と呼ばれる泥岩と赤土で作られる沖縄の伝統的な瓦です。今回の再建では、ボランティアとともに制作したシャモット（被災した正殿の赤瓦を細かく砕いたもの）を混ぜ合わせて新たな瓦を制作しています。

彫刻
石彫刻と木彫刻

正殿にはたくさんの石彫刻や木彫刻があります。正面階段の両脇の「大龍柱」や、基壇の石高欄の上に乗る「石獅子」は代表的な石彫刻です。また、正殿内部の扁額の額縁や梁に見られる琉球特有の龍や、文様の木彫刻も見所です。

焼物
陶芸と造形

正殿の屋根に設置される「龍頭棟飾」や「鬼瓦」は、沖縄の伝統的な焼物の技を活かして作られます。「龍頭棟飾」は 3m もの大きさで、200 個近くのピースに分割して焼かれ、正殿の屋根で組み立てられます。

染織
染織物と刺繍

正殿の一階御差床の額木に取り付けられる布状の「垂飾」には「琉球古刺繍」の技が使われます。また染物の「紅型」や織物の「首里織」などの伝統的な染織技法も知られています。

人を育て、技をつなぐ取組

塗装彩色　広福門の塗替え作業を通した取組

漆塗り工事を行う会社では、若手の技術者を首里城広福門の漆塗替え作業などに参加させながら、熟練の技術者から下地付け、水研ぎ、中塗りなどの琉球漆塗りの技を伝えています。若手の技術者は、美術工芸品の制作を通じて上塗りの技術も磨きながら、正殿復元工事の上塗りのような難しい作業にも取り組む予定です。

首里城広福門塗替え作業

木工　首里城正殿の木工事や建造物木工の研修での取組

正殿復元工事の現場では、木工事を担当する会社が若手の技術者を雇って技術の指導をしています。熟練の技術者の指導のもとで、若手の技術者が木材加工や墨付け、組立てなどの作業を担当し、技をつないでいます。また、国内外からの寄付金を積み立てた「首里城未来基金」を活用した建造物木工の研修も行われており、伝統技術を伝えています。

首里城正殿の木工事現場

首里城未来基金「建造物木工」研修

赤瓦　瓦葺きの研修での取組

漆芸や窯業の経験者を対象に、赤瓦の制作や施工に詳しい技術者を講師に招いて、講義や実習を行なっています。実習では、首里城特有の反りのある屋根への瓦葺きや、大量の雨を流す屋根の谷部の瓦の納め方など、沖縄の特徴的な瓦葺きの技術を伝えています。

沖縄の建造物保存に関する技術伝承者養成事業「瓦葺き分野」研修

彫刻　「首里城未来基金」を活用した木彫刻の研修での取組

木彫刻の経験者などを対象に、正殿復元工事の彫刻物を制作する県立芸大の教員などを講師に招き、研修を行っています。木彫刻の実習や講義、正殿の現場見学などを行い、首里城を支える彫刻などの装飾品にかかわる伝統技術を伝えています。

首里城未来基金「木彫刻」研修

焼物　首里城正殿の焼物制作現場での取組

正殿の龍頭棟飾りや鬼瓦などの焼物は、下地型をつくり、石膏型をおこし、陶土で形作るという段階を経て作られます。制作現場では、その各段階で、熟練の技術者から若手の技術者へと技術を伝えています。

首里城正殿の焼物制作現場

染織　沖縄県工芸振興センターの紅型・織物研修での取組

沖縄県工芸振興センターでは、紅型や織物の技術者を対象に、さらに技術を磨いてもらえるよう、講義や実習による約１年間の研修を行っています。

研修で制作した紅型

織物研修